

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	れいんぼう川崎	評価対象年度	平成28年度
事業者名	・事業者名 社会福祉法人川崎市社会福祉事業団 ・代表者名 長谷川 忠司 ・住所 川崎市高津区久地3-13-1	評価者	障害計画課長
指定期間	平成28年4月1日～平成33年3月31日	所管課	健康福祉局障害保健福祉部 障害計画課

2. 事業実績

利用実績	生活介護・施設入所（定員60名）契約者数 59名（平成29年3月31日現在） 短期入所（定員10名）延利用者数 2,858名 自立訓練（定員20名）契約者 43名（機能訓練11名、生活訓練32名） 在宅リハ訪問件数 537名、診療延件数 1,414件																																				
収支実績	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">収入</th> <th colspan="2">支出</th> <th rowspan="2">収支差額</th> </tr> <tr> <td>福祉事業活動</td> <td>719,129千円</td> <td>福祉事業活動</td> <td>711,183千円</td> <td rowspan="8">0千円</td> </tr> <tr> <td>給付費</td> <td>393,235千円</td> <td>人件費</td> <td>436,974千円</td> </tr> <tr> <td>川崎市独自扶助</td> <td>118,522千円</td> <td>事務費</td> <td>61,208千円</td> </tr> <tr> <td>指定管理委託料</td> <td>122,911千円</td> <td>事業費</td> <td>62,112千円</td> </tr> <tr> <td>拠点区分間繰入金</td> <td>50,698千円</td> <td>拠点区分間繰入金</td> <td>150,889千円</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>33,763千円</td> <td>施設整備等</td> <td>7,946千円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>719,129千円</td> <td>合計</td> <td>719,129千円</td> </tr> </table> <p>※端数処理のため合計が一致しないことがあります。</p>	収入		支出		収支差額	福祉事業活動	719,129千円	福祉事業活動	711,183千円	0千円	給付費	393,235千円	人件費	436,974千円	川崎市独自扶助	118,522千円	事務費	61,208千円	指定管理委託料	122,911千円	事業費	62,112千円	拠点区分間繰入金	50,698千円	拠点区分間繰入金	150,889千円	その他	33,763千円	施設整備等	7,946千円	合計	719,129千円	合計	719,129千円		
収入		支出		収支差額																																	
福祉事業活動	719,129千円	福祉事業活動	711,183千円		0千円																																
給付費	393,235千円	人件費	436,974千円																																		
川崎市独自扶助	118,522千円	事務費	61,208千円																																		
指定管理委託料	122,911千円	事業費	62,112千円																																		
拠点区分間繰入金	50,698千円	拠点区分間繰入金	150,889千円																																		
その他	33,763千円	施設整備等	7,946千円																																		
合計	719,129千円	合計	719,129千円																																		
サービス向上の取組	<p>・「ノーフット＝抱え上げない介助」の考え方の下昨年度に導入した床走行リフトについて、職員と利用者から意見を募りそれを踏まえた調整を行った結果、利用者の安全と職員の腰痛軽減がより一層図られている。</p> <p>・自立訓練では、外出プログラムに理学療法士が同行して屋外移動方法の調整を行ったり、料理プログラムの場で心理士が行動観察を行う等それぞれの職種が自分の役割を広く捉え、必要に応じた柔軟な支援が行われている。</p>																																				

3. 評価（評価段階：5～1,標準：3,加点割合：5→100%,4→80%,3→60%,2→40%,1→0%）

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
総合的な運営状況	利用者への支援	利用者に対する支援を着実に実施しているか	10	4	8
		利用者の障害特性に応じた個別支援等を実施しているか			
	事業成果	基本協定に規定する業務の範囲を適切に実施しているか	10	4	8
		指定管理施設としての事業目的を達成することができたか			
<p>（評価の理由）</p> <p>・利用者への支援のみにとどまらず家族や地域資源にも広く働きかけ、本人が希望に沿った生活を実現するための環境構築も併せて進める地域リハビリテーションの理念に基づいた事業を展開している。</p> <p>・地域移行の希望を持った利用者には在宅生活をシミュレーションできる部屋で宿泊を含めた訓練を行い、地域生活の具体的なイメージをつくらせるとともに自ら課題に気づいて取り組めるよう支援している。</p>					
収支状況	支出状況	計画に基づく適正な支出が行われているか	5	4	4
		支出に見合う効果等が図られているか			
	収入状況	計画通りの収入が得られているか	5	3	3
		条例に基づく利用料等を適切に徴収しているか			
適切な会計手続	会計基準に基づく会計処理がなされているか	5	3	3	
	事業収支に関して適正な会計処理が為されているか				
<p>（評価の理由）</p> <p>・支出については、法人の事務決裁規程や経理規程に基づき、ほぼ予算どおりの予算内で実行を行った。</p> <p>・収入については、給付費収入が若干、予算を下回ったものの、施設全体では、ほぼ予算どおりの収入を確保した。</p> <p>・法人の経理規程に則り適正に金銭管理を行った。</p>					
サービス体制	適切なサービスの提供	提供すべきサービスが仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	10	4	8
		利用者への支援を適時かつ十分に行っているか			
	サービス向上への取組み	現状分析、課題把握等を常に行っているか	5	4	4
		サービス向上に向けた取組みがなされているか			
利用者の意見・要望への対応	意見・要望の収集方法を確立しているか	5	4	4	
	利用者からの要望や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか				
<p>（評価の理由）</p> <p>・在宅リハビリテーションにおいては、利用者個々の希望を尊重するとともに身体機能等を専門的かつ総合的に評価し、地域生活の再構築を目標に住環境の整備や身体の動作指導等を実施している。終了後は、地域のケアチームに支援を引き継ぐためケアカンファレンスへ参加する等、多機関が共同して利用者の地域生活を支える仕組みを構築している。</p> <p>・利用者との日々の会話等から意見・要望を聞き取ることを基本とし、意見箱も設置している。利用者満足度調査を毎年行い、その結果と改善の取組について事業説明会で報告している。短期入所の利用者にはその都度アンケートを依頼し、「ショートステイ日より」で結果と施設の取組を発信した。</p>					

組織管理体制	適正な人員配置	必要な人員が必要な場所に適切に配置されているか	5	3	3
	連絡・連携体制	所管課との連絡・連携が十分に図られているか			
	担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修等が行われているか	5	5	5
	安全・安心への取組	事故、犯罪、災害等から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか(人員配置、マニュアル、訓練等)	5	3	3
		緊急時の連絡体制を構築しているか			
	コンプライアンス	法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	3	3
職員の労働条件・労働環境	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備されているか	5	4	4	
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の資質向上については、研修委員会の計画に基づき内部・外部の研修を積極的に受講している。 ・災害に対する取組として、消防署立会いのもと夜間の火災を想定した訓練を行い、連携を確認したほか地震を想定した訓練も実施している。 ・事故については、転倒や車いすからの滑落が多いため、危険予知と注意事項を支援手順に盛り込んだケアマニュアルに基づく個別性の高い支援に取り組んでいるほか、居室の環境整備や車いすの転倒防止バーの取り付け等により未然防止に努めている。 ・「ノーリフト＝抱え上げない介助」の考え方の下昨年度に導入した床走行リフトについて、職員と利用者から意見を募りそれを踏まえた調整を行った結果、利用者の安全と職員の腰痛軽減がより一層図られている。 					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	3	3
	管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか	5	3	3
	清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか	5	3	3
	警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか			
	備品管理	設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか	5	3	3
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備の定期保守点検等、外部委託している業務は予定どおりに実施され、不具合の報告を受けた場合も迅速に対応している。また給湯器や空調等、利用者の暮らしに大きな影響を及ぼす機器類については突然の故障に備えて、計画的に修繕・入れ替えを行っている。 					

4. 総合評価

評価点合計	72	評価ランク	B
-------	----	-------	---

評価点合計:100点満点,標準点:60点

評価ランク:A~E,標準: C,A→80点以上,B→70点以上80点未満,C→60点以上70点未満,D→40点以上50点未満,E→50点未満
A→特に優れている,B→優れている,C→適正である,D→改善が必要である,E→問題があり適切な措置を講じる必要がある。

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

・利用者本人が望む「自分らしい生活」を実現するため、本人が直接取り組むプログラムの質の向上に加え、他利用者や退所者とのつながりによる意欲喚起・近隣小中学校や祭りでの交流による地域とのつながりを意識する活動等、多方面からのバランスのよい支援を常に模索している。

・支援の中で獲得した知識・技術を講師や学会発表、論文執筆の形で関係者に還元し、当事者や家族を地域全体で支える仕組みの構築に寄与している。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

--